

(5) 特別活動の展開例

特別活動においてキャリア教育を進めていく場合、特別活動の特質から、以下のことに留意する必要がある。

「望ましい集団活動」を通して、身に付けさせたい資質や能力の育成を図る。
 学級（ホームルーム）活動、児童会（生徒会）活動、クラブ活動（小学校のみ）、学校行事などの特別活動を構成する内容の実際の活動との直接的なかわり（なすことによって学ぶ）を通して、身に付けさせたい資質や能力の育成を図る。

次に示すのは、小学校における学級活動の事例である。（6年生の事例）

- (1) 主題名 「いろいろな職業を知ろう」
 (2) 本時のねらい
 いろいろな職業について考えたり、職業マップの見方を学習することによって、世の中には、たくさんの職業があることに気付くことができる。
 自分自身の将来に目を向け、自分の興味や関心のある職業について考えることができる。

過程	主な学習活動	児童の反応	教師の働き掛け・留意点
つかむ	1 学習内容を確認する。 世の中にある職業の種類について考えてみよう。 自分たちの周りにもいろいろな職業があるぞ。		・ めあてについて話し合い、活動内容を把握させる。
か	2 本時の学習について知る。 ・ ワークシートの配布 ・ 使い方・手順の説明 3 どのような職業があるかワークシートに書く。 1～10 3人 11～20 9人 21～30 8人 30～ 4人		・ 学習の進め方や手順について知らせ、活動の意欲をもたせる。 ・ 5分間で知っている職業をできるだけ多く、いろいろな種類の職業を書かせるようにする。 ・ 職業マップの見方について知らせる。
かわ	4 書いた職業が職業マップのどこに当てはまるか調べる。 ・ 各自で調べる 人とふれあう職業や個人サービスが多いぞ。 ・ 全く書けていないところもある。 調べたことを互いに話し合う。 自分の知らない職業がたくさんある。 表のどこに入るかわからないものがある。 情報をあつかう職業については、書けていない。		・ 自分の書いた職業が職業マップのどこに当てはまるか調べさせることで、自分の知らない職業がたくさんあることや、知っている職業に偏りがあることに気付かせる。
わ	5 自分の興味・関心のある職業はどこに当てはまるか調べ、話し合う。 小学校教員 3人、プロサッカー選手 3人、客室乗務員 3人、美容師 3人、獣医 2人、百貨店店員 2人、幼稚園教員 1人、プロ野球選手 1人、保育士 1人、スポーツクラブ指導員 1人、医師 1人、自衛隊員 1人、看護士 1人、声優 1人、ヘアメイク 1人、サッカーコーチ 1人、デザイナー 1人、アナウンサー 1人、モデル 1人、パティシエ 1人、トリマー 1人		・ 将来を見つめ、自らの生き方を考える場を小学校段階なりに設定することが大切です。この事例のように、世の中の職業にはどのようなものがあるか調べ、そのことについて考えることも大変重要なことです。 ・ 自分の思いをありのままに記入させ、互いに発表し合わせることで、自分の考えを深めたり、友達の思いについて理解させたりする。
振返る	6 今日の学習の感想をワークシートに記入させ、感想を発表し合う。 グループで、全体で話し合う。 どんな職業があるのかでは、ものすごく種類があることにびっくりしました。大人になるのが楽しみです。 職業は、とてもたくさんあるんだなと思いました。これからあせらずに何になるか決めていきたいです。 いろんな職業が分かって面白かった。自分が知らない職業にも興味を持てた。 自分の夢に向かってこれから努力していきたい。 自分の知らない仕事もたくさんあり、もっといろいろな仕事について調べてみたいと思った。		・ 友達の発表を聞くことで、互いのよさに気付かせる。
まとめる	7 学習のまとめをする。 ・ 学習を通して高まったことを話し合う。		・ 学習のまとめをするとともに、次時の活動「自分を知って好きになろう」について知らせる。

小学校学習指導要領解説特別活動編は、「学級活動などにおいては、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるように工夫すること」を求めています。これは、キャリア教育の目指す方向とも重なるものです。したがって、特別活動におけるキャリア教育は、学級活動を基盤として進めていく必要があります。

学級活動の話し合いそのものが、身に付けさせたい資質や能力の育成の場です。特に、コミュニケーション能力や自己理解能力、課題解決能力、意志決定能力などの育成が期待されます。

1 単位時間の学級活動は、1年間の学級活動の計画の中でどのような位置付けか、そして、どのように関連付けられているか考えておく必要があります。また、小・中・高の関連や教科、領域との関連も図ることが大切です。
 本実践は、一つのテーマで3回実施する構成になっており、その内の2回分の実践を記載しています。

- (1) 主題名 「自分を知って好きになろう」
 (2) 本時のねらい
 将来の夢や展望をもたせ、自分のよさを伸ばしていこうとする意欲を育てる。
 自分自身に目を向け、自分のよさに気づき、よりよい未来に向かって意欲的に生活しようとする。
 自分の思いや願いを发表或し、伝え合ったりすることを通して、自分のよさや友達のよさに気付くことができる。

前回の学級活動を受けて、本時の学級活動の目標、内容があります。単独で終わらないよう、継続的にを行い、また、本時の授業の事前と事後を大切にするようにします。

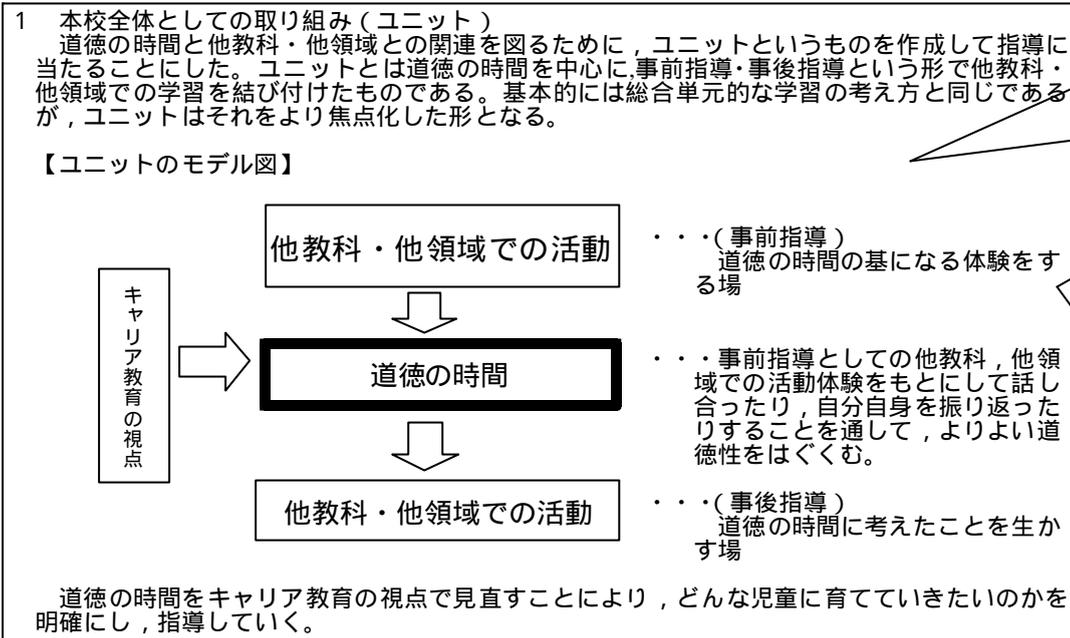
過程	主な学習活動	児童の反応	教師の働き掛け・留意点
つかむ	1 前時の振り返りをする。 今日は、10年後の自分を想像して発表するんだっとな。 2 本時の学習内容を確認する。 10年後の自分を想像し、お互いに紹介し合う。 3 ウォーミングアップをする。 ・ いいとこさがしのエクササイズをする。 自分のいいところをたくさん言ってもらってうれしいな。 友達のいいところもたくさんあるな。	・ 前時の学習内容を、ワークシート等で想起させる。 ・ 本時のめあてについて話し合い、活動内容を把握させる。 ・ 子どもの様子に合わせて場の雰囲気や和らげる。 ・ グループ内の4人で2人ずつのペアを作り交互に行わせる(1分ずつ3回)	ふだん、自分が漠然ととらえている将来の夢や希望を、発表や話し合いの場などで自他とのかかわりを通して確認していきます。そのことが、自己理解を深めていくことにつながります。
かわる	4 本時の学習について知る。 ・ ワークシートの配布 ・ 使い方・手順の説明 ・ グループ(生活班) 5 エクササイズ「10年後の私」をする。 ワークシートに10年後の私について考えていることを書く。 「10年後の私」をグループ内で紹介し合う。 ・ 一人ずつ発表する。 ・ ホットシートに座る。 ・ 一人ずつ交代する。 フリートークキングをする。 ・ 質問し合ったり、これからどうすればいいかなどを互いに話し合う。	・ やり方や手順について知らせ、活動の意欲をもたせる。 ・ ルールを守って楽しく活動し、自分や友達のよさを見つけることを理解させる。 ・ ワークシートには、自分の思いや願いをありのままに書けるよう支援する。 ・ 友達が発表しているときは、自分の書いたものと対比させ、似ている点、相違点に気付かせる。 ・ 互いに自分の気持ちを伝え合うことや相手の言葉に耳を傾けることが、めあての達成になることを確認させる。 ・ 児童相互の人間関係や否定的な発言はないか配慮する。	本時のねらいを達成するにはどのような手だてが必要か考えます。手だてとしてワークシートの活用や、エクササイズ、フリートークキングが講じられていますが、あくまで手だてでは、指導上、効果的だと考えた上で講じているもので、始めに手だてがあるわけではありません。他の手だてとしては、エンカウンター型の活用やワークショップ型の話合いも考えられます。
振り返る	6 「10年後の私」発表会の振り返りをする。 ・ よかったこと、気付いたことなどを発表し合う。 ・ グループ、全体で話し合う。 みんなそれぞれの夢があり、聞いていて「そうだったんだなあ」と思った。 夢はかなうか分からないけど、がんばっていききたい。A君やBさん、Cさんも頑張って夢をかなえてほしい。 自分も他の人も、いろいろな夢をもっていた。その夢にどうすればいいかでも他の人とはちがういろいろな考えがあることが分かった。 また、何になるかちゃんと決めていないので、みんなの夢もたくさん聞いてこれからはいろいろな決めていききたいと思う。 自分だけではなく、こんなにも友達が夢を目指していることにおどろいた。 これからは頑張りたい。 親にも言えないことが友達には普通に言うことができてスッキリした。大学や高校、中学はどこにいくか分からないけど、どこに行っても夢に向かってがんばりたいです。 職業について考える年なんだと思った。みんなの職業を聞いて、いろいろな夢があるんだと思った。夢に向かってがんばっていききたい。	・ 新しい発見やプラスの反応が見られた子を賞賛する。 ・ 友達の発表を聞くことで、互いのよさに気付かせる。	児童が主体的に学ぶことができるように、多様な学習活動を工夫することが大切です。
まとめる	7 本時の学習のまとめをする。 ・ 本時の学習で自分が高まったことを話し合う。	・ 今の自分のよさに気付くことができるよう支援していく。 ・ 次時の活動「なりたい自分になろう」について知らせる。	

3回目の学級活動は、以下のような活動が予定されている。

「なりたい自分になろう」と題して、自分が就いてみたい仕事や地域のために力を尽くした人について調べさせたり、疑似体験をさせたりして、これからの自分の生き方や職業について考えることができるようにする。

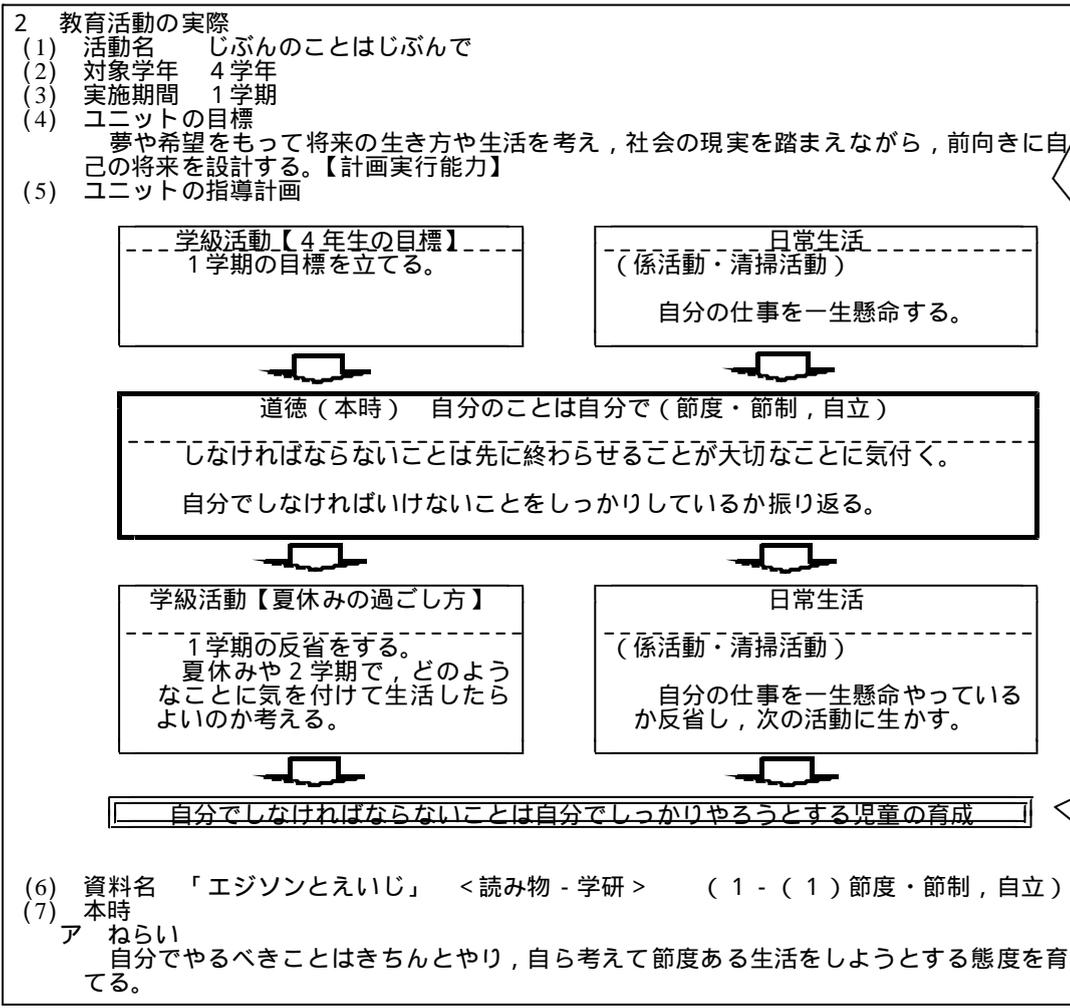
(6) 道徳の時間の展開例

次に示すのは、小学校の道徳の実践例である。道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成するために創意工夫した活動にする必要がある。



道徳教育は、道徳の時間を核として、教育活動全体を通して行うものです。そのような意味で、道徳の時間と他の教育活動との関連を図ることは大変重要なことです。

キャリア教育の視点で道徳の時間の位置付けを明確にすることが大切です。明確にすることで、道徳の時間の在り方やその事前指導や事後指導が生きてくることになり、充実した教育活動を展開することにつながります。



総合単元的な道徳の授業や本事例のようなユニット型の道徳の授業を行うことで、児童は、現在、自分の置かれた状況での役割を意識し、現状を見直すこととなります。また、他の教育活動で最後までやり遂げたことのある経験を道徳の時間に振り返ることによって自己有用感や自己効力感を味わうことができます。あるいは、やり遂げることができなかった経験を振り返ることで、今、何をなすべきかを考え、実践する態度を養うことができます。

道徳の時間を核として教科、領域等と関連付ける場合、なぜ関連付けるのか、どこをどのように関連付けるのかを検討しておくことが大切です。

イ 実際			
過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働き掛け
気付く	1 しなくてはいけないことができなかった経験について話し合う。 ・勉強をしないで遊んだ ・手伝いをしなかった。 2 本時のめあてを知る。 しなくてはいけないことをやりとおすためにはどのような気持ちが必要なのだろうか。	8分	しなくてはいけないことにどんなことがあるかを発表させる。 これまでの経験を振り返らせ、そのときの気持ちを発表させる。 しなくてはいけないことがあることをわかっていながらもやりとおすことができないことの意識と行動の矛盾に気付かせ、本時のめあてを設定する。
考える・深める	3 資料「エジソンとえいじ」を視聴し、えいじの心の変化を中心に話し合う。 (1) エジソンについて話し合う。 (2) 心に残った場面について話し合う。 えいじの気持ちを考えながら、聞きましょう。 心に残ったところは、どこですか。 (3) 「感想文を書いていたもんだから」というゆう太の言葉に、えいじがどきっとしたのはなぜか。 ・ しまった。 ・ ぼくはまだやっていない。 ・ 先に書いた方がよかったな。 ・ だいじょうぶ。時間はまだある。 ・ あとでちゃんとやろう。 (4) 9時過ぎにあわてて本を読み始めたえいじは、どんなことに気付いたか。 ・ どうしよう。 ・ このままでは終わらない。 ・ ゆう太君のように、先にやっておけば。 ・ なぜもっと早く読んでおかなかったんだろう。 (5) 次の日、エジソンの伝記を読んだえいじはどんなことに気付いたか。 ・ エジソンはやるべきことをちゃんとやっている。 ・ ぼくは好きなことをして、しなければいけないことを後回しにしていた。 ・ やることを先にやらなくちゃいけないんだ。	2.7分	エジソンの発明品や言葉などを紹介しておく。 話し合う場面を考えさせながら聞かせる。 心に残った場面を発表させ、話し合う場面を設定する。 どきっとしたが、改造をやめていないという事実や、その後も夢中になって、宿題をやるうとしないう事実をあげて、えいじの計画性のなさに気付かせる。 えいじの行為が招いたのだということに気付かせる。 吹き出しを使ったワークシートを用いてじっくり考えさせ、えいじの気持ちに共感させる。 えいじの気持ちを考えることにより、しなくてはならないことをきちんと終わらせることの大切さに気付かせたい。
振り返る	4 しなくてはならないことをきちんと終わらせた時の経験や気持ちについて話し合う。	7分	これまでの自分を振り返らせ、しなければいけないことをやり遂げたという自信をもたせる。
高める	5 教師の話聞く。	3分	自分でやるべきことはきちんとやり、自ら考えて節度ある生活をしていこうとする意識を高める。

導入段階は、ねらいとする道徳的価値への方向付けの段階です。成功体験だけでなく失敗体験など、これまでの経験を想起させ、問題場面を把握させます。

資料分析を十分に行い、道徳的価値とキャリア教育ではぐみたい能力との関連を明確にしておくことが大切です。そして、そのことを踏まえた上で、中心場面を設定します。

展開の前半部分は、資料を基にした、ねらいとする道徳的価値の追求の段階です。主人公の行為やその心情に迫り、児童の多様な考えを引き出し、自分なりの道徳的価値を深めさせます。

登場人物に自分を重ね、その考え方や行為に共感したり、その行為を批判的に検討したりすることで価値を追求していきます。その際、読み聞かせや視聴覚機器などを活用し、資料の内容を深く受け止めることができるようになります。また、パネルシアターやペープサート、役割演技や動作化などを活用し、価値の自覚化に迫らせます。このような活動を取り入れることで、児童は、なりたいたい自分に気付いたり、なりたいたい自分を見付けたりすることができます。

教師自身の説話や板書による整理、あるいは児童の作文や保護者からの手紙などを紹介することで、本時の学習を自分なりに受け止めさせ、なりたいたい自分に向けての実践化への意欲付けを図ります。

ねらいとする価値の追求から、資料を離れ、自分自身の行為や経験を振り返って、見つめ直すようにします。その際、なりたいたい自分に気付いたり、なりたいたい自分を見付けたりするような発問を工夫することが大切です。

展開の後半部分は、自分自身の問題として考えさせる段階です。自分なりの道徳的価値を深めることを通して、今までの自分を振り返ることになりますが、自分の過去の反省をするだけでなく、前向きに考えようとする自分のよさを感じ取らせるようにしたいものです。そして、人間としてこれからどのように生きるべきか、児童なりに生き方を自覚させます。